

一般質問

「市政ここが聞きたい」



議会動画配信

6月20日(火)

チャットGPTに

真剣な対応を!!

福井 章司 (自由民主党)



①市は昨年11月に公開された対話型のAIであるチャットGPTについてのAIで捉えているか②全国の各自治体がこの生成AIの取り扱いを検討中だが、市はどのように検討しているか③今後、市はチャットGPTを導入する予定はあるか。

答弁

①人口減少に伴い不足する人材を数や質の両面において補うことができ、業務時間の短縮や質の向上が期待できる。一方、機能、品質、安全性、倫理的な問題、権利の侵害などが懸念される②本年5月に生成AIの活用が見込まれる業務を調査し、各部署で想定される活用事例を把握した。若手職員で構成するデジタルサービス創出検討部会で研究する予定である③導入に向けてスピード感を持って前向きに検討していく。

◆その他◆アフターコロナ社会の取り組みは/交通安全対策について



自治会への

加入促進を!

山口 弘展 (緑橋市民)



①近年の加入状況とその要因は②未加入世帯に対しごみステーションの使用に制限をかけるなどの制約を、どのように考えるか③こういった問題を自治会長任せにせず、親身になって対応すべきだと思うが④今後、加入促進に向けてどう対応していくのか。

答弁

①令和元年度以降の自治会の加入世帯数はほぼ横ばいだが、加入率は減少している。増加した単身世帯の加入が進まないことが要因と考える②自治会の判断によるが、まずは加入への理解を求めるよう助言している③法的根拠や近年の訴訟の事例等も踏まえ、未加入世帯と自治会が解決策を模索できるよう、双方に寄り添った助言に努めたい④自治会協議会と連携しながら、加入促進に係る事例を調査し、実施に向けて検討したい。

◆その他◆都市戦略における緑化推進について/企業誘致について



新しい図書館の

基本構想をひもとく

永瀨 史孝 (自由民主党)



①今後の方針は②構想は図書館内部のみなのか③書別ではないエリア構築が必要では④設置物の充実の考えは⑤漫画コーナーを充実しては⑥自動車図書館の駅訪問の結果は⑦自動車図書館サービス拡大を構想に入れる考えは⑧開館時間の変更の可能性は。

答弁

①訪れる市民が自由にのびのびと気持ちの良い時間を過ごせる場所づくりを目指す②外観等の改修も課題③利用者の利便性や満足度が向上する形で検討する④ゆつくり気持ちの良い時間を過ごすためのツールとして重要⑤さが未来発見塾の高校生に問いかける⑥昨年度3回実施。PR効果が高い⑦情報発信として新たな図書館利用者の獲得に繋がる可能性がある⑧効率的な運営手法や運営体制等の検討にあわせて考える。

◆その他◆佐賀市公式スーパーアプリ/神野公園再整備/市の情報発信強化



公的な発送物に

音声コードの活用を



なかしま たまお
中島 妙子 (公明党)



視覚障がい者に公的な情報が届きにくい現状がある。①音声コードとはどのようなものか②情報取得の手段を一つでも増やすためにも、上下水道だより等で導入している音声コードを活用すべき③音声コードの周知の方法は④今後の取り組みは。

答弁 ①文字情報を二次元コード

に変換したもの。専用アプリ等で音声に変換できる②音声による情報取得の機会の確保は大変重要で、音声コードの普及は必要である。導入できるところから検討する③音声での周知が有効と考えており、ラジオやテレビ等も活用していく④職員研修等で障がいの特性に応じた情報発信ができるよう理解を深める。全市民が市からの情報を取得できるように取り組む。

◆その他◆若者に

対する支援について／マイボトル等利用できる給水スポットの設置について



音声コード活用例(上下水道だより)

発達障がいに対する

市長の見解は



えがら ひろし
江頭 弘美 (自由民主党)



発達障がい児の増加傾向が続いている。社会全体で発達障がいに対する理解が進み、子育て施設職員の知識や対応能力等が向上しており、関係機関に相談するケースが増えているため、増加するのは当然かもしれない。深刻な社会現象といえるが、市長の見解は。

答弁 これからは多様性の時代

であり、さまざまな特性を持つ子どもたちが、自分らしく輝き受け入れられる環境をつくっていくことが大切である。特に、発達障がい児に対する支援の充実には力を入れるべきと考えており、子どもたちが互いに尊重され、自分らしく自立した生活を送れるように、乳幼児期から成人期に至るまで切れ目のない支援の充実を図っている。今後も子育てがしやすく安心して暮らし続けられるまちづくりに取り組む。

◆その他◆松原公園

整備事業について／中核市への移行について



バルーンのまち

佐賀市を未来へ!



とみなが あけみ
富永 明美 (ネットワフ)



①多くの方々に愛され支えられて今がある。この先、未来へのビジョンや後世への継承を考えると、これからの支援のあり方も検討する必要があると思うが②県外への認知度向上の為、佐賀バルナーズと併せてのPRは相乗効果も期待できると考えるが。

答弁 ①佐賀市のバルーンのさら

なる発展を目指さなければ、いつの間にか停滞・衰退してしまうことも考えられる。バルーンを活用した様々な取り組みを積み重ねていくことが、重要と考えている②バルナーズの活躍は、佐賀市のバルーンのPRにつながると考えている。バルーンフェスタ等のイベントに合わせ、選手と触れ合う機会を設けるなど、相乗効果を狙った取り組みを行いたい。

◆その他◆保育施設

における3歳児以上の主食持参について／市民芸術祭について



市民に開かれた

市政とは



もろどみや ちよ
諸富 八千代 (佐賀みりの会)



投票率の低下に危機感があり、市民の声を聞くことが政治参画につながる。①昨年開催の市長と円卓トークのねらいと今年の予定は②パパ達の育児座談会での声をどう生かすか③パブリックコメントの周知と活用は④市長の考える市民に開かれた市政とは。

答弁 ①テーマを決めて市長自ら

の思いや考えを示し、参加者が政策への理解を深め、同じ目線で意見交換できるように工夫した。今年度も4回実施予定でテーマを選定中②デジタルツールを活用した情報発信や、悩みを共有できる居場所づくりなどを進めたい③市報と市ホームページで広報し、提出された意見等を実施機関で検討して意思決定を行う④自身の思いや考えを発信するとともに、市民の生の声を大切にして政策を実行すること。

◆その他◆図書

館政策について／統一地方選挙を振り返って



6月21日(水)



堤 正之 (自由民主党)



神野公園の整備
充実を！

神野公園は整備検討中であるが①子ども遊園地は低年齢の子どものために整備充実すべきでは。また、隣接する交通公園も老朽化しており整備対象とすべきでは②現状でも駐車場が不足しており、グリコ工場跡地の一部など新たな駐車場の確保に取り組むべきでは。

答弁 ①子ども遊園地の敷地の拡充や交通公園の在り方などについては、再整備検討委員会の議論の中で一体的に検討したい②まずは地権者である江崎グリコの意向を尊重すべきと考えている。一方で、この場所の重要性から、部分的な活用について相談できないか引き続き情報収集等を行いたい。同時に、より分かりやすい駐車場案内など、駐車場の利便性改善策も含めて検討していきたい。

◆その他◆農地法の一部改正／管理不全空き家の固定資産税軽減措置対象除外／幼児保育施設の充足状況



6月22日(木)



松永 憲明 (ネットワーク)



教職員の働き方
改革まったなし!!

①「学校における働き方改革の取組推進について(通知)」の実施状況と今後の指導は②メンタルヘルス対策のため教職員専用のカウンセラー配置を求める。

答弁 ①当該通知は各校長宛に送付し、教員会議等で討議や教員へ配布・回覧するようにしているが、配布・回覧や討議のいづれも行わなかった学校もあり問題と捉えている。今後働き方改革を進めるよう指導していく②全校対象の健康相談を毎月実施しているため、直ちにカウンセラーの配置は考えていないが、専門的な知識を持つ教職員向けのカウンセラー配置は望ましい。まずは国、県に対し、配置時間増を要望していく。

◆その他◆教員や指導員等の欠員の実態は



山下 明子 (市民共同)



猛暑時のクーリング
シェルター

猛暑の中でも、節約のためや加齢による体感麻痺で暑さを感じないため空調機を使用しない場合もある。①熱中症による救急搬送の実態は②熱中症を防ぐため、身近な公共施設や商業施設などを猛暑時に避難できるクーリングシェルターと位置付ける考えは。

答弁 ①令和4年は特に猛暑日が多く救急搬送の件数が急増した。年齢区分別では高齢者が半数以上、発生場所は住居が最も多く、発生時間は13時がピークである②法の改正で国は冷房を備えた公共施設、商業施設等をクーリングシェルターとして活用するとしており、令和6年夏の運用開始に向け準備している。情報を共有し、各部署でできる取り組みを検討する必要があると考える。

◆その他◆マイナンバー保険証／医療的ケア児・者の災害時の支援／サンライズパーク開設後の現状と課題



山田誠一郎 (ネットワーク)



有明海漁場改善と
ノリ消費拡大を!!

①有明海の漁場改善のための市と県の事業は②ノリ不作による漁業者の経営に対する支援は③ノリが不作となった時の漁業者への支援をどう考えているのか④ノリの消費拡大のための現在の活動は。

答弁 ①本市では2か所のみお筋をしゅんせつする事業を実施、県ではサルボウガイの稚貝の放流等が行われ、今後は海底耕うんの実施が計画されている②価格高騰、栄養塩低下対策の経費および漁業者の借り入れへの支援を実施した③どのような支援が必要か関係機関と協議し検討していく④佐賀市水産業振興協議会でバルーンフェスタへの出展等様々な活動を行っており、今年度は妊婦を対象とした新ノリ試食会の開催を検討している。その他、都市圏でのPR活動等広報に努めている。

◆その他◆有害鳥獣対策について



6月22日(木)

人に優しい移動 手段の環境整備を！



村岡 卓 (公明党)



市は障がい者に対する移動手段のサービスに数多く取り組まれている。その中でタクシー利用助成券の交付を行っているが①実施の経緯と助成金額の推移は②利用者の声は③これまで助成額の増額を検討したか④今後の助成額増額の考えは。

答弁

①生活圏の拡大および社会参加の促進を図り福祉の増進に寄与することを目的に旧佐賀市で昭和62年10月から開始。開始時から年一万円②助成の増額③平成27年に他市の状況を調査し増額を検討。さらに検討を重ね平成30年、約一万四千元(初乗り料金×24枚)に増額と現行(二百円×50枚)の場合でアンケートを実施。約七割が現行制度がよいとの回答で増額には至らなかった④前回調査から年数も経過し社会情勢も変化しており、方法を含め再調査を検討したい。
◆その他◆川を愛する週間について



6月23日(金)

観光マーケティングの検討を！



稲葉 高広 (自由民主党)



観光産業は飲食や宿泊、お土産の購入などさまざまな分野で消費が行われる裾野が広い産業であり、本産業の振興は本市経済に好影響をもたらす。第三次佐賀市総合計画策定に向けて観光マーケティングを行い、戦略的なビジョン策定を行うべきと考えるがどうか。

答弁

次期総合計画の成果目標の設定にあたっては、本市の観光の強みと弱みを知り、「売り」とすべきポイントを見出して、目指すべき方向性を明確にすることが重要と考えている。そのためには、データの収集および分析を行うとともに、観光客の動向や求められるニーズを的確に把握しながら、本市が目指すべき成果目標を設定したい。
◆その他◆SAGAスマート街なかプロジェクトについて



指導員配置の考え方を問う



御厨 洋行 (自民清流)



放課後児童クラブにおいて悪天候などで早めの開所が必要、また下後に児童の所在確認が取れない場合など、校区内在住の指導員であれば対応が可能。また指導員を心のよりどころにしている児童も多い。指導員の配置換えは極力するべきではないと考えるが。

答弁

経験豊富な指導員が別の児童クラブに配置されることにより、これまで蓄積されたノウハウや経験が新たな配属先で生かされ、各指導員のスキルアップに寄与するとともに、児童クラブの運営全体も活性化していくといったメリットもあると考える。また、配置換えを行う場合には、指導員に対してあらかじめ聞き取りを行ったうえで、配属先を決めている。より良い児童クラブの運営を目指し、今後適切に指導員の配置を行いたい。
◆その他◆市営住宅について



超高齢化社会の中 新たな支援を



中村 宏志 (公明党)



①高齢者の見守りは、企業団体等との新たな連携・推進を②防犯意識向上の取り組みは③高齢者の生活支援に民間企業団体等の活力を取り入れるべきでは④高齢化に伴い市の窓口において新たな取り組みを行うべきでは⑤高齢者の熱中症予防に関する取り組みを！

答弁

①国の制度や市の事業を活用した支援を継続しつつ、先進的な事例について注視していきたい②無防備、無関心による犯罪被害を防ぐため、おたっしや本舗での相談対応や民生委員、自治会長への情報発信や生活安全課と連携した啓発等を行っている③今後公的サービスでの対応が難しくなると考えられるため、民間企業を含め地域の取り組みを広げることが必要④会話を文字化するアプリの活用などを予定している⑤保健師の健康講話、事業所で行う介護予防教室などで注意喚起を行っている。



6月23日(金)

外国語教育の充実

に向けて

藤田 佳典 (ネットワフ)



①聴覚理解力と読解力の格差についてどう考えるか②A・L・Tの授業・生徒への関わり方はどうか③外国人児童・生徒の受け入れにおける支援体制はどうか④多言語学習についてどう考えるか⑤教育交流授業の内容・魅力をより広く知らせるべきではないか。

6月26日(月)

小中一貫校思斉館

前の道路整備は

中野 茂康 (緑橋自民)



県道外環状線、中副交差点より沿岸道路久保田インターまでの道路拡張計画の図面の提示から10年目。歩道の幅が1.5m弱の所もあり児童・生徒達は危険な状況で通学している。工事の進まない理由は、今後の事業内容や計画はどうなっているのか。

答弁 ①リスニングやスピーキングの力を育成するために、会話を重視した授業が重要と考えている②英語の音声・表現指導のほか、自国の文化の紹介やアクティビティを進める役割等を担う③習熟度に応じた担当講師等による日本語指導のほか、巡回指導も行い、佐賀市全域で日本語指導が受けられる体制を整えている。また、教室内に翻訳アプリを搭載したタブレットを配置④国際的に活躍する人材育成のためには、大変重要と考えている⑤周知方法に関して、関係者等と意見交換し、検討したい。



答弁 用地交渉や補償物件の移転、旧久保田支所の移転に関する調整、軟弱地盤対策、整備区間内に多く存在する地下埋設管についての関係機関との協議や移設作業に時間を要した。また、道路を横断する函渠や水路の付け替えなどの施工においては、迂回路による通行を確保し、段階的に実施する必要があった。久保田インターから久富交差点までの具体的な整備計画は県から示されていない。児童・生徒の通学などの安全のため、事業主体の佐賀県に、早期完成を働きかけていきたい。



答弁 ①市内には外来魚が現在6種類生息していると推測されるが、市内各地に生息している現状や、旺盛な繁殖力を鑑みると、生息数は増加していると思われる②人員体制や調査期間等を考慮すると生息数の把握までは難しいが、今後、市民生活に影響を及ぼすなど、調査の必要が生じた場合は、調査手法を含めて改めて検討したい③販売店から購入者への啓発があれば効果的である。保健所とも連携しながら、ペットショップ等への周知を行いたい。



外来魚から佐賀市

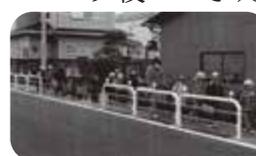
を守れ!

宮崎 健 (自由民主党)



①先日、高校生が佐賀市のクマでアロワナを捕獲した記事が新聞に掲載されたが、外来魚の生息数は増えているのか②捕獲再捕獲法等を用いて、正確な生息数を把握すべきと思うが③ペットショップ等を通じて、外来魚の放流禁止を啓発すべきではないか。

答弁 防衛省に対して必要な対策等を求めており、子どもの安全確保については、要請書で通勤・通学時間における土砂および資材の運搬については行わないことを言及している。また、防衛省が主体となり関係機関で構成された意見交換の場を設置した上で、安全対策等の協議を行うことを求めており、子どもの通学時の安全が十分に確保できるよう教育委員会や学校とも連携を取りながら、引き続き適切な対応を意見交換の場等でも求めたい。



子どもたちの通学

路の安全対策

重松 徹 (自由民主党)



駐屯地工事については登校時間帯は運搬を全て休止されているが子どもが交通事故に遭うリスクは登校時よりも下校時の方が約2.5倍多いと言われている。子どもの安全を確保するためには運搬経路に優先的に防護柵又は仮設ガードレール等を設置すべきでは。

市民の選挙運動参加に制限はあるか



にしおしか 西岡 真一 (自民清流)



選挙運動に多くの市民が参加することで、選挙の機運が盛り上がり、市民の投票行動が促され、結果的に投票率向上につながると思う。何かの役職を市などから委嘱された人でも、その職務上の地位を利用するのではなく、選挙運動に参加できるのではないかと。

答弁 満18歳以上の有権者であれば、選挙運動期間中は自由に選挙運動をすることができる。例外的に、公職選挙法では、例えば県や市の部長が、職務上で関係する団体に特定の候補者を推薦するよう勧めるなど、公務員等の地位を利用しての選挙運動を禁止している。それぞれ職務に関係する法令等に規定がある場合等は、その行為の態様、状況等を総合的に判断する必要があるため、個々の事例については、それぞれの実情に基づき判断する必要がある。

◆その他◆排水対策基本計画について



環有明海観光連合との連携は



かわすみけいすけ 川副龍之介 (自民民主党)



①令和4年6月に発足した環有明海観光連合の目的と具体的な活動内容は②観光振興に力を入れている佐賀市は観光連合に何を期待しているのか③B1に昇格するブルーナーズのブースターの拡大を促すため観光連合等に協力を求めているかどうか。

答弁 ①有明海周辺地域の観光協会が連携し、広域で観光事業の普及振興を図ることを目的としている。マルシェを開催したほか、有明海沿岸のラムサール条約登録湿地の清掃活動を予定しており、今後、アフターコロナを見据え、活動範囲を広げていく見込み②観光は広域で取り組みと効果が高いと考えるため、情報共有や連携をしていきたい③県域を越えた交流の場でのPRは大きな効果が見込める。今後効果的な取り組みを検討していきたい。

◆その他◆SAG Aアリーナの来場対策について



市民の声を市政に生かす方策は?



かわさきけんじ 川崎 健二 (自民民主党)



広く市民の声を市政に生かすことは大切なことと考える。①市民の意見を聴く制度としてどのようなものがあるか②市政への提言・市政モニターの利用状況は③パブリックコメントの現状と問題は④スーパーアプリ等のデジタルツールの今後の活用は。

答弁 ①提言箱等での「市政への提言」、市民モニターへアンケートを行う「インターネット市政モニター制度」、政策等策定の際市民の意見を聞く「パブリックコメント手続」等の3制度②R4年度の実績は提言359件、モニターは7件の実施で回答率23%③過去3カ年の意見は20件中5件。市報での早めの広報は困難だが市HPで適宜告知している。今後早期に周知したい④ラインや市報等を活用し適切に発信していく。

◆その他◆空き家の整備と活用を／携帯・スマホ等から子どもを守る



自衛隊佐賀駐屯地の建設を検証する



えぐちよしまさ 江口 善己 (ネットワーク佐賀)



①防衛省と市の合意事項に乖離している部分はないか②市長の木更津駐屯地視察の感想は③建設工事に特化した説明会開催を防衛省に促す必要はないのか④建設工事に伴う騒音や振動への協議体制はどうなっているか⑤隊員宿舎建設による地域への影響は。

答弁 ①漁協の協議会臨時総会や理事会の決定は組織として重いものであり、市はその判断を尊重したい②今回の視察で確認した運用状況等は今後市政の参考にしたい。運用面に関しては今後も情報提供を求めたい③防衛省からは個別の工事説明会に対応することであり、市民に対する丁寧な説明を求めたい④防衛省が主体となり、関係市町、道路管理者、警察等で構成された意見交換の場が必要と考える⑤隊員宿舎が南川副地区に整備されれば、周辺エリアの振興にもつながると考える。



6月27日(火)

市有林の利用促進を

黒田 利人 (塚橋昌良)



市有林には、現在木材として利用できる杉・ヒノキがあると聞く。今後その材木を使つての公共施設の建築が望まれる。よつて今後の市有林の伐採計画・利用計画を長期的に立てる必要があるが、市の考えは。

答弁 現在、公共施設整備の際には市産木材を中心に使用されているが、市有林から切り出された木材を建材として利用するには、切出しから利用するまで2年ほどかかる。そのため、中長期的な建築計画を把握する必要が有ると考えている。公共施設の中長期的な整備計画に合わせた市有林の整備計画についても検討し、市有林から産出される木材を含め、市産木材の有効活用を努めたい。

◆その他◆鈴木新副市長に所見を聞く／小・中学校体育館に空調設備設置を



6月28日(水)

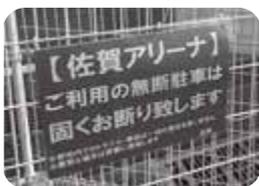
SAGAアリーナ周辺の駐車場不足

平原 嘉徳 (自民清流)



SAGAアリーナの駐車場不足については、建設前から不安視されていた。①駐車場に関して、県とどのような協議をしてきたか②オープン後混雑は見られなかったのか③駐車台数不足について、市の見解は④立体駐車場を造るべきと県に進言すべきではないのか。

答弁 ①県との協議は、平成30年頃から開始している。当時は施設利用者以外の駐車や長時間の駐車が課題であった②付近の国道では大きな交通渋滞は見られず、バスもスムーズに運行していたが、高架下の交差点では一時的に混雑した時間帯もあった③基本的に利用者の駐車場がないため、公共交通機関の利用促進や歩くライフスタイルの推進などに取り組んでいる④今後も県と市、指定管理者が情報の共有と協議をしていきたい。立体駐車場を造るべきという提言については、県に伝えたい。



視察報告

総務委員会

視察者8名 (宮崎、富永、藤田、中村、重松、堤、江頭、黒田)

5月9日(火) 室蘭港湾事務所(北海道室蘭市)

◎広域防災フロートについて

広域防災フロート(浮体式防災基地)は、平常時は工事資材の台船などとして利用し、大規模地震などの災害時には住民の避難や緊急物資の輸送など、災害復旧活動を支援する施設である。ヘリポートを備えており、船舶の接岸や復旧支援用の車両の乗り入れが可能で、防災フロートは、東京湾、伊勢湾、大阪湾にもあるが、外洋に出られるのは、室蘭だけ。建設費は約11億円で、維持管理費は年間約500万円。

平成12年3月の有珠山噴火を契機に、平成15年12月に室蘭市が建設。平成22年7月に国有化され、同年9月に室蘭市と北海道開発局が締結した「災害時における広域防災フロートの被災地への派遣に関する協定」において迅速な派遣を可能とする体制が整備された。平成23年3月11日東日本大震災では被災地支援のため、岩手県大船渡港、福島県相馬港に支援物資を輸送し、引き続き相馬港に在港して10月まで臨時の作業船係留施設として活用された。

広域防災フロートを派遣する際には、海上保安部、運輸支局、室蘭市等の関係機関の連携協力が必要のため、協議会を設置し、曳船手配や物資・資機材

の調達運搬などの実施計画を協議するとともに、派遣行動に関する各種訓練を実施している。令和元年には、室蘭市の市民参加の防災訓練でも活用された。



室蘭港湾事務所視察

5月10日(水) 北海道神宮(北海道札幌市)

◎島義勇公の顕彰の取り組みについて

北海道神宮は、札幌市中央区に所在し、明治天皇が北海道に「開拓三神」を祀るよう詔を出したのが始まりで、当時、札幌市街の設計に着手した開拓判官・島義勇公により、三方を山に囲まれ一方は平野に開けている円山の地に社殿を造営することが決められた。社殿前の一角には島義勇公の銅像が建立されている。また、境内には開拓功労者を祀る開拓神社、隣接する円山公園には島判官紀功碑がある。

島義勇公は、「北海道開拓の父」と称えられ道民に親しまれ、北海道神宮では、その業績をたたえて、命日の4月13日には毎年、顕彰祭が開かれている。顕彰会では、島の出身地である佐賀との交流だけでなく、初代知事として八郎瀧をはじめとした干拓事業に貢献したことから秋田県とも盛んに交流が行われている。来年は没後150年にあたるため、神宮では盛大な祭りが予定されており、また、講演会等の開催も計画されている。



北海道神宮視察